

濃厚接触待機最短3日に

政府 社会経済維持狙い

新型コロナ

新型コロナウィルスの流行「第7波」の急拡大を受け、政府は22日、感染者の濃厚接触者の待機期間を、7日間から5日間に短縮することを盛り込んだ追加対策を発表した。抗原検査で2回続けて陰性を確認できた場合は陽性者との接触から3日目に解除する。国内では22日、新規感染者が19万人を超え、3日連続で過去最多を更新した。感染拡大が続く中で、の短縮に専門家から異論も出ているが、欠勤を余儀なくされる濃厚接触者が増え、社会経済活動を維持できなくなる恐れが出てきたため見直した。

【4、29面に関連記事】

感染19万人超最多

厚生労働省は、待機解除後に濃厚接触者が発症する可能性は一定程度あるが、市中の陽性率と同等の許容できる範囲と見なしている。これによって感染が拡大することを

「茂之厚労相は記者団に対し「(感染対策を)緩めていく」というつもりではなく、客観的エビデンス(根拠)に従って対応した」と話した。

厚生労働省は、今年秋以降にオミクロン株に対応したワクチンを活用して5回目などの追加接種を実施する方向で準備を始めた。専門家らの検討会を立ち上げ、適切なワクチンの種類を詰める。現時点では、重症化しやすい高齢者を対象に想定。今後得られるデータな

どを踏まえてその他も対象にするか検討する。

濃厚接触者の待機期間短縮は22日から適用する。濃厚接触者の特定や行動制限については、これまで通り、感染するリスクの高い同居する家族や、重症化リスクが高い人がいる医療機関、高齢者施設の従事者に求められていく。企業の職場などそれ以外では必要ない。追加対策ではこのほか、症状が軽く重症化リスクが低いと考えられる人には、発熱外来などで抗原検査キットを配布し、自ら検査して健康観察を受ける体制を整備する。

22日に報告された国内の

新規感染者数は19万5160人。都道府県別では東京3万4995人、大阪1万9952人、福岡1万2155人など。岩手、東京、福井、兵庫など22都道府県で過去最多となった。死者は東京7人、大阪5人、福岡4人など計55人が報告された。厚生労働省によると、重症者は191人で前日から2人増えた。自宅療養者数(20日午前0時時点)は、過去最多の61万2023人だった。